

「介護ビジネスの未来を創る」  
**週刊高齢者住宅新聞**

Elderly Press Newspaper

2017年(平成29年)

6月14日

第449号 (毎週水曜日発行)

(株) 高齢者住宅新聞社

〒104-0061

東京都中央区銀座8-12-15

☎03-3543-6852 (編集部)

発行人 西岡一紀

年間購読料 22,680円(送料込・税込)

ホームページ

<http://koureisha-jutaku.com>

第23回 専門家のプライドは捨てよう

新しい住まいの形  
**コミュニティづくり**

～日本版CCRCを考える～

か。かつて原発の「安全神話」を語っていた多くの専門家が、現実を前に「想定外」を繰り返したことは記憶に新しいでしょう。科学技術だけの話ではありません。設計士や会計士、医師など専門家といわれる人々から、普段は耳にすることのない用語で説明されると、こちらは「そういうものなのかなあ」となんとなく納得してしまふ。

専門家の言うことを鵜呑みにしていいのだろうか——そんな疑問を多くの方が抱いたのは、東日本大震災における福島第一原発事故とその後の電力会社の対応ぶりを見てからではないでしょう

しかし、専門家の本来の役割は「難しいことを素人に対して、やさしく噛み砕いて伝える」ことにあるはず。専門家の話が難解だったら、「あなただの説明はよくわかりま

地域づくりは分野横断型で

せん」と堂々と言わなければなりません。ところが、私たちは権威に弱いというか、「こんなことを聞いたら馬鹿にされるんじゃないか」と見栄に邪魔をされるといふか、その場の空気を読んで聞き流してしまいがち。専門家にもプライドの塊のような人がいて、素人を中心に据えた質問をされると、逆ギレしたりして始末に負えません。

しかし、「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」というように、その場で確かめないと、後々大きな後悔につながってしまうことがあります。

なぜ私はここで専門家批判を繰り返しているか。分野別に縦割りにな

った世界で生きているのに、まちづくりはできないと思うからです。

地域コミュニティは色々な要素から成り立っています。たとえば、建物であったり、医療であったり、お金であったり。しかも互いが重なり合っている部分があるので、設計士は建物の設計、医師は患者の治療、銀行マンは金勘定だけやっていればいいというわけにはいきません。自分の専門な役割を担っているのかわりを他分野の人々と連携しながら補うのです。

人口減少が続くなか、持続可能な社会のしくみをつくっていくという、

(株) コミュニティネット 高橋 英 與  
 (たかはし・ひでよ)



1948年岩手県花巻市生まれ。コーポラティブハウスや有料老人ホームづくりを経て、2006年コミュニティネット代表取締役就任。自立型高齢者住宅を中心とした団地・過疎地再生事業に携わり、現在は地方創生の最前線に立つ。主な著書に『コミュニティ革命「地域プロデューサー」が日本を変える』(彩流社)。